

「身近な地域の調査」の学習の中で、「益城町に求められる交通網」をテーマに追究していきます。特に益城町内を走る循環バスに焦点を定め、どのようなバスが走ると良いか、意見交換することを通して、考えを深めていきます。GTからは生徒たちの意見を踏まえた話をしてもらうことで、より地域社会への参画の意欲を高めることにつなげます。生徒たちが地域に暮らす一人として、多面的・多角的に益城町の将来像を構想することができる内容にしたいと思えます。

## 社会科（地理的分野）学習指導案

日 時 令和2年11月27日（金）第5校時  
場 所 益城町立益城中学校  
年 組 益城町立益城中学校 2年4組 34名  
指導者 益城町立益城中学校 教諭 志水 英介

### 1 単元名 第4章 身近な地域の調査 (東京書籍 p.264～p.281)

#### 2 単元について

##### (1) 単元観

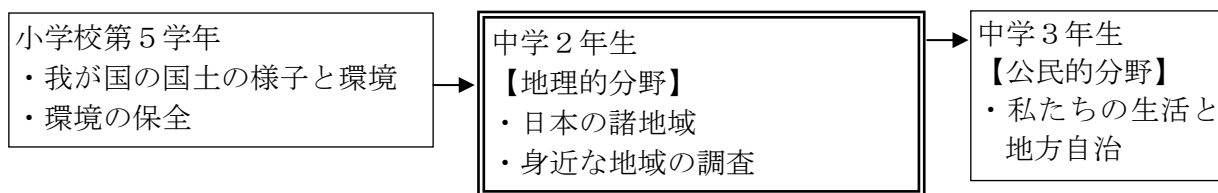
本単元は、新学習指導要領の地理的分野「C 日本の様々な地域」の「(4) 地域の在り方」にあたる。この中項目では、地域の実態や課題解決のための取組を理解することや、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、地域の在り方を地域的特色や地域の課題と関連付けて多面的・多角的に考察、構想し、表現する力を養うことをねらいとしている。

益城町は、熊本市に隣接する立地特性や、阿蘇くまもと空港、九州自動車道益城熊本空港インターチェンジを有する交通特性などの優位性のある町であり、人口流入が進んでいた。しかし、近年では人口減少が見られ、高齢者の割合も高まってきており、益城町の課題として位置づけられている。益城町ではこのような課題をふまえ、「ずっと住み続けられるまち」を目指す都市計画が作成されている。そこでは町内の公共交通網を整備することを重点項目の一つに掲げている。本単元では、益城町内を走る循環バスに着目して、「ずっと住み続けたい町」となるためにどのようなバスが走ると良いのか生徒一人一人が考える機会としたい。

本単元の学習では、日本の諸地域で学習した事象や事柄を生徒が生活する身近な地域を対象にして調査し、地域の課題を見だし追究していくものであり、地域社会の形成に参画する態度を養うことにもつながる。このことは、熊本県中学校教育研究会社会科部会が掲げている「民主主義の担い手に必要な資質能力を育む」ことにも大きく関わる学習であると考えられる。

(2) 系統観

本単元における系統は以下の通りである。



(3) 生徒観 (男子16名, 女子18名, 計34名)

本学級は34名で, 学習に対して意欲的に取り組むことのできる学級である。本単元に関するアンケートをとった所, 以下のような結果になった。

|                                     |  |
|-------------------------------------|--|
| 地理の学習は好きですか                         | 好き (21名), 好きではない (5名), どちらでもない (6名)  |
| 資料等を使って調べる活動は好きですか                  | 好き (14), 好きではない (4), どちらでもない (14)  |
| 自分の考えをまとめ, 発表する活動は好きですか             | 好き (7), 好きではない (14), どちらでもない (11)  |
| グループで考える学習は好きですか                    | 好き (27), 好きではない (2), どちらでもない (3)   |
| グループ学習のいいところはどんなところだと思いますか          | 他の人の意見を聞いて, 考えが深まる場所 (12), 新しい考えができる場所 (10), みんなで意見をまとめる場所 (3), 意見を共有できる (3), 分からない時に教えてもらえる (2), 協力し合える (1), まとめた意見を発表する場所 (1)  |
| 益城町のバス停からバスを利用したことがありますか            | ある (18) 熊本市内への移動, 買い物, 遊び, 大会<br>ない (14)   |
| 「益城町循環バス」を知っていますか                   | 知っている (5)<br>知らない (27)   |
| 「益城町循環バス」を利用したことはありますか              | ある (1) 知り合いのところに行くため<br>ない (31)  |
| 「益城町循環バス」は何のために運行していると思いますか         | 交通の便を良くするため (15), 町の魅力を伝えるため (13), 夜遅くに使う人のため (1), お年寄りの移動 (1), 自然を守る (1), わからない (1)   |
| バスがもっと利用しやすくなるためには, どんなことが必要だと考えますか | ルール・マナーの徹底 (8), 魅力を伝え乗りたいと思えるようにする (6), バス停を増やす (5), バスの本数を増やす (3), 思いやり (3), 運転手をもっと優しくなる (2), 時間を決める (1), 障がい者への配慮 (1), 知らない人の横に座らない (1), 料金を分かりやすく表示する (1), 無回答 (1) |

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 益城町の特徴は何だと思いますか          | 自然豊か（13）、明るい感じで空港や高速道路が近い（5）、地震があった（4）、市内に近い（2）、湧き水が多い（2）、住宅が多い（2）、野菜がおいしく都会と田舎の良いところを両方持っていて人が優しい（2）、お年寄りが多い（1）、何もない（1）    |
| 益城町は将来、どのようなようになってほしいですか | 自然豊かでごみがない（6）、暮らしやすい（6）、色々な施設が増えてほしい（5）、人が増えてお金がある豊かな町（3）、都会（3）、そのままがいい（3）平和で犯罪がない（3）、みんなが笑顔で明るい（2）、震災から立ち直りにぎやかになってほしい（2）、 |

アンケートの結果から、地理の学習に対する関心が比較的高いことが分かる。グループ学習については8割以上の生徒が好きだと答えており、「考えの深まり」や「新たな考えに気付ける」ことにグループ学習の良さを感じている。また、資料を使った学習や、個人で発表する学習になると約半数の生徒が消極的な考えを示していることが分かる。このことについてもグループ学習が有効に働くと考えられることから、授業でもグループ学習を取り入れ考えの深まりや新たな気付きの多い学習にしたい。

本単元の内容に関わる益城町の公共交通網については、半数以上の生徒がバスを利用したことがあると答えている。しかし、本単元で中心的に扱う益城町循環バスのことを知っている生徒はわずかであり、利用したことのある生徒はほとんどいなかった。また、循環バスそのものについての理解が高くないとはいえ、バスの運行の目的についての回答から、交通網の整備について多面的・多角的に捉えることができていないことも分かる。

#### (4) 指導観

- ・調査対象が自分たちの住む町（身近な地域）となることから、課題について学校で調べるだけでなく、休日等に自分たちで実際に現地へ出かけて観察したり住民の意見を聞いたりする活動に取り組みせたい。
- ・1次では、益城町の地理的特色について捉えさせ、交通における課題を把握させる。2次では、資料をもとに課題を追究し、将来像について構想させ、意見交換を通して自分の考えを持たせる。3次では、構想の実現のために益城町の良さを生かす視点から考えさせ、将来に明るい展望をもたせる。
- ・調査活動では、資料の読み取りを中心に行い、自分の考えを持つ時間を確保するとともに班活動を積極的に取り入れ、説明したり意見交換したりする活動を充実させる。
- ・地域の交通網について構想する際には、あらかじめ現在のバス路線図を示しておくことで、その路線図をどうするのか、構想の手助けとなるようにする。
- ・GT（ゲストティーチャー）を活用し、実際に益城町としてどのような循環バスの計画がなされているのか、生徒の意見と関連付けられた話を聞くことで、地域社会の形成に参画しようとする意欲を高める。
- ・学習を通して、益城町の良さを更に発揮するために、立地的特性や交通特性について捉えなおし、明るい将来像が描けるようにする。
- ・本単元の学習を通して、益城町についての興味・関心を高め、郷土愛を高め、郷土を大切にすることを培う。

### 3 単元の目標

益城町が「住み続けたい町」になるための考察を地図や資料を活用して行う中で、地理的な特色を見出し、自分たち以外の様々な立場からも考えることで構想し、将来の益城町について明るい展望をもった生徒の姿。

|               |  |
|---------------|--|
| 知識・技能         | <p><b>【身近な地域の調査】</b><br/>         身近な地域の調査を通して、身近な地域の課題に気付かせ、課題の一般的共通性と地方的特殊性を理解させるとともに、課題を追求するために適切に資料を読み取り、調査したことを図表などにまとめる技能を身に付けさせる。</p> |
| 思考力・判断力・表現力   | <p><b>【身近な地域の調査】</b><br/>         身近な地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容に着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察し、解決に向けて構想したことを表現させる。</p>                          |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <p><b>【身近な地域の調査】</b><br/>         身近な地域の諸事象に対する関心を高め、調査活動を通して地域の課題について意欲的に追究し、解決に向けた構想を考えさせる。</p>  |

### 4 単元の指導計画と評価（規準）計画（全5時間 本時 4 / 5）

| 次                                  | 時 | 主な学習活動   | 評価   |
|------------------------------------|---|--|--|
| 単元を貫く課題：どうすれば益城町は「住み続けたい町」になるだろうか？ |   |  |  |
| 1                                  | 1 | <p>「身近な地域を見直そう」（課題の把握）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料を使って、これまでの益城町と現在の益城町について知る。</li> <li>過疎・過密地域で見られる交通の課題を見いだし一般化するとともに、交通網の発達と持続可能な発展に着目して、益城町のまちづくりの課題を共有する。（バスに焦点化する）</li> <li>家庭学習プリントとしてインタビュー用紙を配付する。家族に聞き取りを行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>益城町の変容を資料から捉え、現在の益城町について理解している。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>【知識・技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通の課題の一般化をもとに益城町の発展の課題として見いだし、共有している。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>【思考・判断・表現】</b></p> |
| 2                                  | 2 | <p>「資料を使って課題を分析しよう」（課題の分析）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>益城町のバスの利用環境と町の都市計画について知る。</li> <li>資料やこれまで学習してきた内容を参考にしながら、バスの必要性を考え、課題を分析する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>益城町について意欲的に調べ、課題を追究している。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>益城町のバスの課題について資料を参考に考えている。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>【思考・判断・表現】</b></p>            |

|   |             |  |   |
|---|-------------|--|---|
|   | 1<br>本<br>時 | <p>「資料を使って構想しよう」<br/>(課題解決に向けた考察)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>益城町のバスの利用環境の向上と熊本市との連携の向上について、資料やこれまで学習してきた世界や日本の諸地域の内容も参考にしながら、益城町の持続可能な発展のために必要なバスの運行について多面的・多角的に構想する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>益城町について意欲的に調べ、将来像を追究している。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の在り方を、地域の結びつきや地域の変容、持続可能性などに着目し、益城町のバス運行の課題について多面的・多角的に構想している。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> |
| 3 | 1           | <p>「実現の道筋を考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>循環バスの構想を中心に、益城町が「住み続けたい町」にどうすればなるかの課題について考える。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>構想の実現に向けて、益城町がICや空港をどのように活かせばよいか自分の考えをまとめている。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p>   |

## 5 本時の学習

### (1) 本時の目標

益城町のバスの運行の在り方を、地域の結びつきや地域の変容、持続可能性などに着目し、課題の解決に向けて、意見交換を行いながら多面的・多角的に構想することができる。

### (2) 本時の展開

| 過程 | 時間  | 主な学習活動                                | 学習形態 | ○教師の指導<br>・予想される生徒の反応や新たな問い  | 教材資料等        |
|----|-----|---------------------------------------|------|--|--------------|
| 導入 | 5分  | 1 学習の振り返りを行い、本時の学習内容を確認する。            | 一斉   | ○前時の学習を振り返り、益城町の発展のためのバス運行の課題について確認させる。  | プレゼン資料       |
|    |     | 学習課題：益城町にどんなバスが走れば「住み続けたい町」になるか考えよう。  |      |  |              |
| 展開 | 5分  | 中心発問：循環バス路線をどうつくれば益城町の課題解決につながるのだろうか。 |      |  | プレゼン資料       |
|    |     | 2 どのような路線が考えられるか資料をもとに考える。            | 個人班  | ○資料を参考に、多面的・多角的に考えさせ、ワークシートに循環バス運行の将来像について構想させる。<br>・誰がどんな目的で利用するのか。<br>・狭い道はどうするのか。<br>・いつ走らせるのか。 | 地図<br>ワークシート |
|    | 20分 | 3 相互の意見交換を行う。                         | 班    | ○自慢できる考えを発表し、意見交換を行わせる。  | ワークシート       |

|             |         |                             |          |  |            |
|-------------|---------|-----------------------------|----------|--|------------|
| 展<br>開      | 10<br>分 | 4 他の意見も参考にして再度、どの路線が良いか考える。 | 個人<br>一斉 | ○はじめの自分の意見と、他者の意見とを比較し改めて自分の意見を考えさせる。<br>○良いと思った路線に名札をはらせる。<br>・どの考えが益城町の人に最も受け入れられるだろうか。<br>○意見の変容があった生徒、なかった生徒に考えを発表させる。 | ワーク<br>シート |
|             | 5<br>分  | 5 GT の話を聞く                  | 一斉       | ○自分たちの考えと比較しながら、疑問の解決につながるヒントがないか考えながら話を聞くように促す。   |            |
| ま<br>と<br>め | 5<br>分  | 6 本時を振り返り、次時につながる問いを投げかける。  | 個人<br>一斉 | ○学習を振り返り、実現するために益城町に必要なことを問い、IC と空港に触れ、次の学習への意欲を持たせる。  | ワーク<br>シート |

### (3) 本時の評価

| 場 面 | 評価基準   |
|-----|--|
| 評 価 | A：益城町のバス運行の在り方を，地域の結びつきや地域の変容，持続可能性などに着目し，多面的・多角的に考察，構想，表現している。<br>B：益城町のバス運行の在り方を，地域の結びつきや地域の変容に着目し，多面的・多角的に構想している。 |